

『町民の 町民による 町民の為の政治』は民主政治の根幹である。一方「特定の 特定による 特定のための政治」によることが、時には世を騒がしていることもある。長与の政治を世はどのように評価しておられるのでしょうか。特定の政治はあってはならないことである。私は、行政職約44年間。議員としての政治職約16年間。合わせて約60年間の永きにわたり町政に携わり、公平・公正を旨として又様々な政治の場に接したこともあり、吉田町長を含め町長4代と関わり様々な政治も見てきたところである。吉田町長は、平成24年の町長選挙により、現職を退けて見事当選の栄を得られた。現在3期目で2年目の折り返し点をつつがなくクリアされ、いよいよ終盤となっている。令和6年は、いよいよ町長選挙であり従来に増しての精一杯の支援をする覚悟であり、吉田町長におかれては、再びの挑戦を願うとともに大きな期待をしているところである。「初心に帰る」これを忘れることなく、残された人生の全てを掛ける覚悟で、町民の為の政治を断行されることを願うものである。

それでは今日の町政の課題とその対応について、政治家としての意気込みを披瀝されることを期待し以下について質問する。

① 丁寧な行政運営について

(1) 人口増加対策について

長崎新聞の11月3日付10月の県内自治体別人口によると、10月1日には4万人を切り39,888人となっている。令和2年の人口ビジョンでは、今後18年後の令和22年40,284人。現実と対比してあまりにも大きな乖離である。人口は町政のバロメーターである。

ところが平成19年頃から本町においては、人口の減少傾向が起り始めたのである。昭和40年代から右肩上がりが増加してきたことは承知のとおりである。昭和50年から55年の国勢調査では、55%の増加率で日本一であった。これは自然的な現象からではない。まさに意図的であり、計画的であったのである。それは、民間と行政がそれぞれの役割を担い、民間による大小開発事業への誘導・行政の区画整理事業とまたそれに計画性をもった取り組みの成果であったのである。「為せば成る なさねばならぬ何事も なさぬは人のなさぬなりけり」である。

そこで以下について質問する。

(イ) 現在の人口と計画人口のあまりにも大きな乖離をどのように解するのか。

(ロ) 人口減少に歯止めをかけず、ただなりゆきまかせではなく、大胆な人口増加対策に政策転換することが町長の役割ではないのか。

(2) 評価と批判について

吉田町政で、図書館の姿がようやくにして少し見えてきた。高田南土地区画整理事業も数十年を経過し、これもようやく完成が見えつつある。西高田線の街路事業ももうすぐ完成に近い。このような声を聞く。このような声は高い評価である。私もうれしく思う一人である。一方では、永年無料で使用できた、公共施設等の使用料を数年前から徴収するようになり、未だに何を考えているのかとの声がある。上長与地区公民館の風呂は町民の憩いの場でもあったが、簡単に撤去してしまった。更には今後中尾城公園の滑り台が解体されるそうだ。先代の町長が苦心して整備してきた様々な施策を、今なぜ町民の利便性・楽しみを奪ってしまっているのか。今後何を壊し、何をなくしてしまうのか等々の批判の声を聞くのである。

そこで、以下について質問する。

- (イ) 吉田現町長の評価についていかがお考えか。
- (ロ) 一方の批判については、町政推進方策が雑すぎるのではないのか。使用料にしても、議会に提案し議決後慌てて町民に説明するなど、本末転倒であった。要するに丁寧な説明不足ではないのか。
- (ハ) 初当選後タウンミーティングに力点を置き、行われてきたが、近年疎遠になってはいないのか。「初心に帰る」ことが必要であるがどう思うか。

## ② 公共施設の拡充及び維持管理等について

### (1) 道路の拡充について

長与～時津間の交通渋滞は今始まったものではない。以前からの重要課題として、両町・県において議論がされてきたものと認識している。今日、その議論の状況が見えないようであるが、忘れられてはいないのか。

以下について質問する。

- (イ) 関係者の協議状況はどうか。
- (ロ) 渋滞解消策についての県に対する要請等経過と対応策はどうか。
- (ハ) 町長の重点施策としての取り組みの施政が見えてこない。抜本的な対策を早急に打ち出す考えはないか決意のほどを聞きたい。

### (2) 維持管理等について

#### (イ) 中尾城公園内のスパイラルスライダーの撤去について

この施設は、町民に関わらず近隣市町からの評判も良く、広く利用されてきたところである。ところがスライダーの最後のカーブ付近での事故が発生し、改善等手をつくしたが、最終的には撤去の憂き目となったのである。この公園も先代の町長の肝いりで建設されたものである。撤去のことを耳にされるとさぞかし残念に思われるのではないかと推測しているところである。

- 1) 撤去についての町民への説明はしているのか。
- 2) 撤去の意思決定から数年が経過し、今日放置されているがいつ撤去するのか。
- 3) 撤去の費用はどのくらいを想定しているのか。

#### (ロ) 道路・河川・施設等の維持管理について

公共施設は造れば終わりではない。その維持管理は長い将来にわたり、施設面では少なくとも50年前後はその必要がある。要はいかに効率よく維持管理するかであり、町民が利用し易くすることが行政、政治の役割である。そのためには、維持管理費の捻出が必要である。町民の欲求には、町長を補佐する職員に任せることなく、率先して現状把握に努め、政治主導の予算の確保に身を徹すべきである。

- 1) 町長はいかなる認識を持っているのか。
- 2) 道路・河川・切り取り法面（長与ニュータウン等）の保全等の予算確保についての考え方はいかがか。

## ③ 教育行政について

教育長は、去る9月の定例会本会議において、全会一致で本町の教育長として承認された。改めてお祝いを申し上げる。このことはあなたに対する教育行政への期待が大きいことを示しており、今後のご活躍を祈る。

そこで以下について質問する。

### (1) 教育長に就任され、教育行政の基本的方針を伺いたい。

教育長は学校教育出身であるが、教育長職はバランスのある教育行政の責任者であり、その感覚が必要である。そこで、学校教育、社会教育、家庭教育等全体的な教育方針を伺う。

(2) 学校教育における小中学校の不登校の実態とその対策について

小中学校における不登校については、大変憂慮されることである。全国の国公立小中学校で2021年度に30日以上欠席した不登校の児童生徒は244,940人と報道された。前年度より24.9%増えたそうである。不登校の理由は無気力・不安が最多で、生活リズムの乱れ、友人関係と続いているそうだ。

(イ) 本町における不登校の実態はどのようになっているのか。

(ロ) 不登校の理由の把握状況はどのような方法で行い、その状況はどうなっているのか。

(ハ) 不登校児童生徒に対する相談体制と指導の内容はどのようになっているのか。

(3) 学校の衛生環境の整備について

学校における衛生環境の一つとしてのトイレの洋式化と温水洗浄便座については、過去何回となく整備を督促してきたところである。この設備は時期を選ばず常時利用する、なくてはならない施設でその整備が急がれる。洋式化は、小学校では57.4%。中学校では50.9%。学校全体では55.3%であり、学校により格差があり一番高い学校は長与小で87.8%とのこと。目標でも令和7年で学校全体で70%とお聞きしている。温水洗浄便座の整備では小学校で11器。中学校では12器で増設の気は全くないようである。この際町長と談判して、教育長の今後3年間の任期中に職をかけ完了するよう取り組む考えはないか。目標の令和7年で70%を、令和8年で100%とすること。

(4) 社会教育行政にもっと力点をおいて

かつて私も、社会教育主事として教育行政に携わったものである。私は「社会教育は学校における教育活動を除き一般社会で行われる教育活動」と解している。学社連携から、学社融合へと移行して久しいところである。いつの世もそうであるが、見える行政が必要である。私は見える社会教育に力を注いできたところである。今の社会教育活動が見えているのか、私にはあまり見えない。

(イ) 学社融合についての取り組み状況はどうか。

(ロ) 近年の取り組みの教育効果はどうか。

(ハ) 教育長になると学校教育一辺倒は許されない。バランスのある教育行政が期待され又必要である。率先して社会教育行政に力点をおいた行動を起こすことが必要と思うがその考えはないか。

(ニ) 教育長、違った視点から見て、社会教育が今見えていますか。